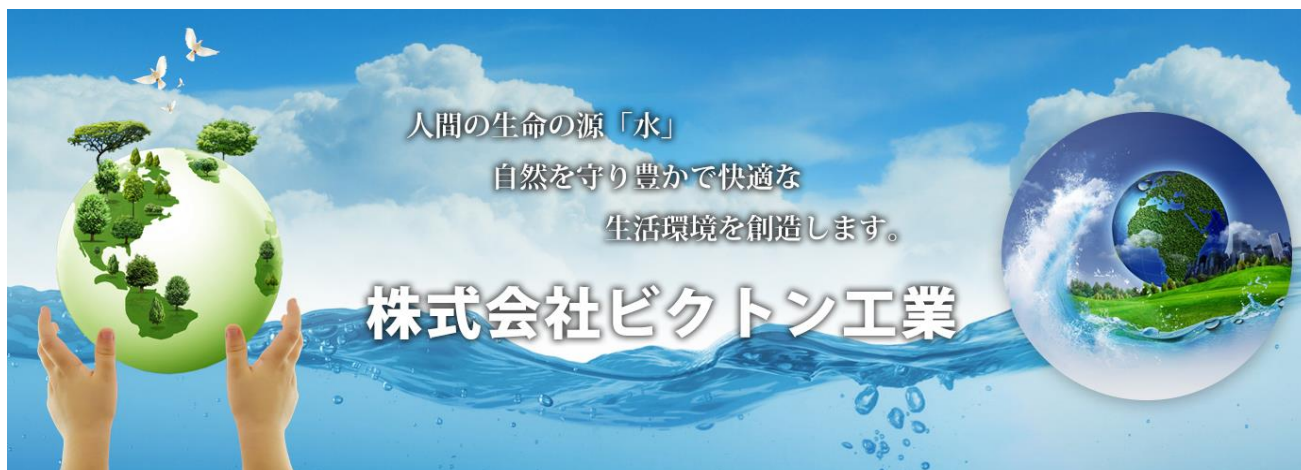




2023 年度 環境経営レポート

(対象期間: 2023 年3月1日～ 2024 年2月29日)



作成日： 2024年3月15日

目 次

項 目	ページ
あいさつ	P3
環境経営方針	P3
組織の概要	P4
事業・製品の紹介	P4
資格一覧	P5
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	P6
主な環境負荷の実績	P6
環境経営目標及びその実績	P6
環境経営計画の取組結果とその評価	P7
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果, 並びに違反, 訴訟等の有無	P11
緊急事態対応訓練	P11
代表者による全体の評価と見直し・指示	P12
我社の安全衛生の取組みの紹介	P12
これまでの環境活動の紹介	P12

ごあいさつ

私たちは創業以来 人々が豊かで快適に過ごす中で排出された汚水や企業が生産活動をするなかで排出された排水を浄化し、再び自然環境に戻してきました。一方でその活動には多くのエネルギーを消費し二酸化炭素の排出を伴う事業でもありました。

私たちはそれらすべての事業領域において 継続的に効率を改善し見直すことで、環境に貢献する企業としてのさらなる責任を果たすことが出来ると信じています。

私たちは全社一丸となって環境経営を積極的に推進してまいります。

環境経営方針

<経営理念>

私たちは技術と熱意をもって 水資源の有効活用と地球環境の保全に努めます。

私たちは互いに認め合い切磋琢磨し明るい未来を築いていきます。

<環境経営理念>

私たちは排水処理事業を通して常に環境に貢献する事業を営みながら、日常の業務活動においても常に環境負荷の低減をはかることを意識して行動します。

取引先にも積極的に環境負荷を低減する提案を示し企業としての存在価値を高めていきます。

<環境保全への行動指針>

1. 環境関連法規を遵守し当社が約束した環境保全行動を全社員で実践します。
2. 動力機器や電灯器具の運転を見直し消費電力と二酸化炭素排出量の削減に努めます。
3. 廃棄物の発生抑制につとめ、建設副産物のリサイクルに努めます。
4. 適正な動力使用量での水質保全に努めます。
5. 排水事業を通して、地域の水質保全に貢献します。
6. 遠方への移動時はルートを決めて定速エコ運転に徹し燃料消費を削減します。
7. 地域や関係団体の環境活動に積極的に参加します。
8. エコアクション21により社内での環境活動の継続的改善を図ります。



制定日：2019年10月1日

改定日：2021年3月1日

代表取締役社長 **松田 和能**

組織の概要

更新日：2024年3月15日

- (1) 名称及び代表者名
株式会社ビクトン工業
代表取締役社長 松田 和能
- (2) 所在地
本 社 大阪府泉大津市北豊中町1丁目3-1
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者 市川 友紀 TEL：0725-21-5271
担当者 山口 望 TEL：0725-21-5271
- (4) 事業内容
汚水処理施設の設計・施工・維持管理
公害防止関連施設の施工
造園の設計・施工・維持管理
- (5) 事業の規模
売上高 97 百万円
- | | |
|----------------------|--------------------|
| | 本 社 |
| 従業員 名 | 5 名 |
| 延べ床面積 m ² | 266 m ² |
- (6) 事業年度 3 月 1 日 ~ 2 月 29 日

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名：株式会社ビクトン工業
対象事業所：本 社

対象外：なし
活動：汚水処理施設の設計・施工・維持管理
公害防止関連施設の施工
造園の設計・施工・維持管理

□事業や製品(商品)の紹介

浄水場沈殿設備



合併浄化槽



合併浄化槽バロー設備



工場廃水処理設備



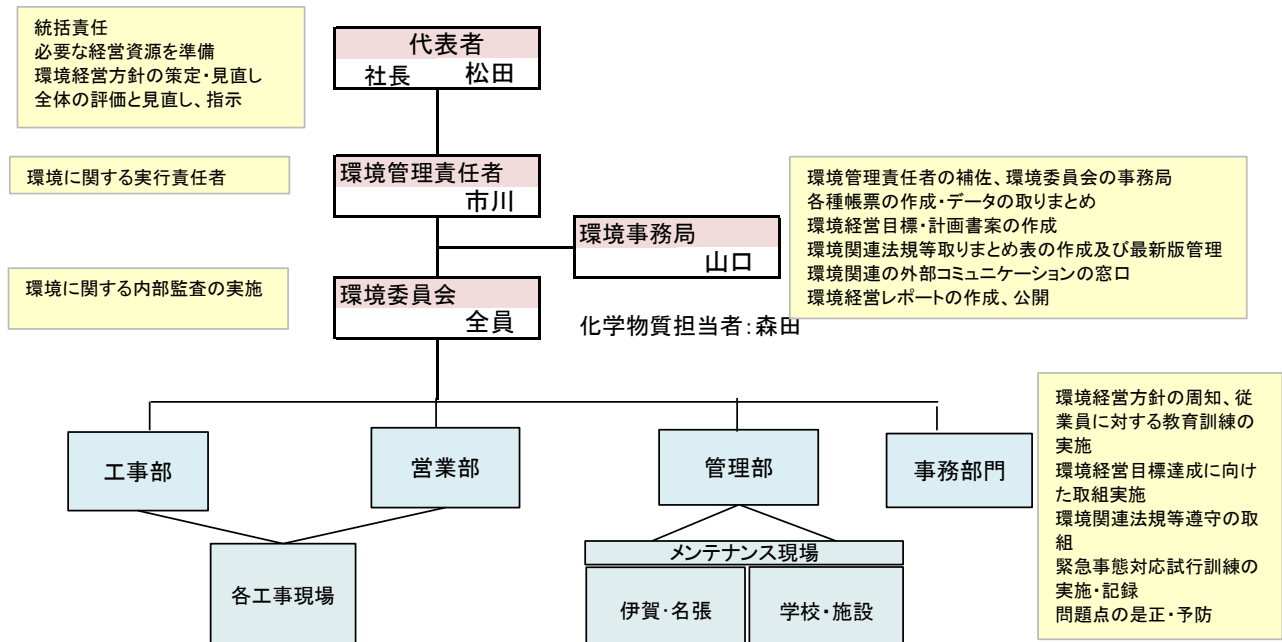
工場集じん設備



□資格一覧

・管工事施工管理技士 1 級	1 名
・造園施工管理技士 1 級	1 名
・土木施工管理技士 2 級	1 名
・下水道技術検定（第 2 種）	1 名
・下水道技術検定（第 3 種）	1 名
・農業集落排水計画設計士	1 名
・下水道排水設備工事責任技術者	1 名
・浄化槽整備士	1 名
・浄化槽技術管理者	1 名
・浄化槽管理士	3 名
・第二種電気工事士	1 名
・酸素欠乏、硫化水素危険作業主任者	1 名

環境経営組織及び役割・責任・権限



主な環境負荷の実績

項 目	単位	2021年度	2022年度	2023年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	172,164	161,665	114,591
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	kg	210	204	201
産業廃棄物排出量	kg	0	0	0
水使用量	m ³	76	63	63

※二酸化炭素排出係数 0.453 kg-CO₂/kWh 電力会社の調整後の係数

※電力使用量実績が中部電力と関西電力であることからそれらの使用量実績(2019年度調整後)にて加重平均して排出係数を算出

※負荷の実績は工事現場を含む(2022年度は伊賀、生駒、名張の電力使用量を含み、2023年度は維持管理終了の生駒を含まず。)

※2020年度～2023年度については産業廃棄物の排出はありません

環境経営目標及びその実績

年 度		2022年	2023年度		評 価	2024年度	2025年度
項 目		(基準値)	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	107,260	106,188	106,392	×	102,970	101,897
	基準年度比		99%	99%		96%	95%
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	8,476	8,391	8,200	○	8,222	8,137
	基準年度比		99%	97%		97%	96%
上記二酸化炭素排出量合計		115,737	114,579	114,591		111,192	110,034
一般廃棄物の削減	kg	204	190	201	×	190	184
	基準年度比		93%	99%		93%	90%
建設副産物のリサイクル推進	行動目標(次項による)						
水道水の削減	m ³	63	62	63	×	58	57
	基準年度比		99%	100%		92%	90%
工事の効率化	行動目標(次項による)						

※ 電力については本社事務所と浄化槽維持管理を受託している伊賀、名張の電力使用量を含めて管理しています。

※ 2022年度二酸化炭素排出量実績から維持管理終了の生駒分を差し引いた基準値としています。

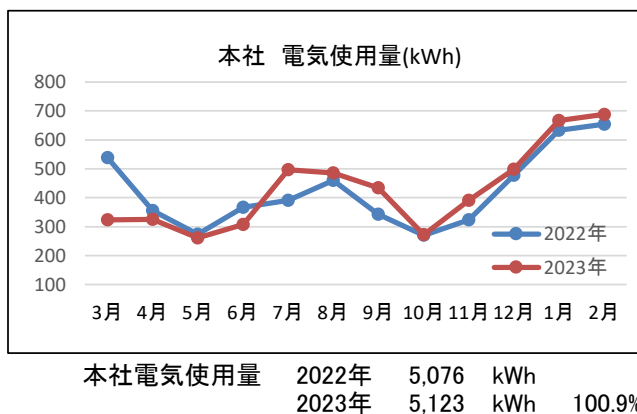
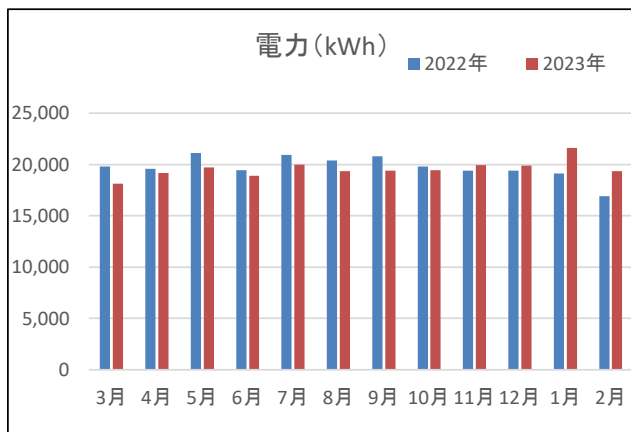
環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の計画

数値目標：○達成 ×未達成

活動：○よくできた △まあまあできた ×全くできなかった

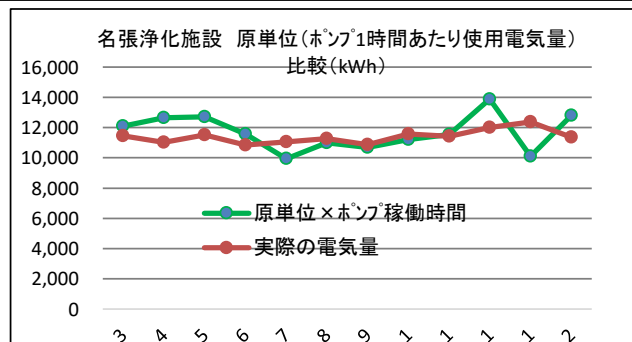
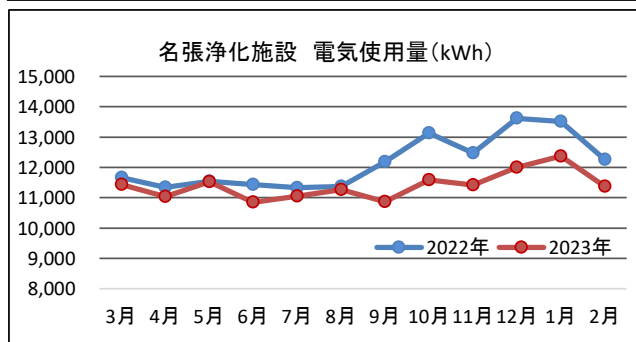
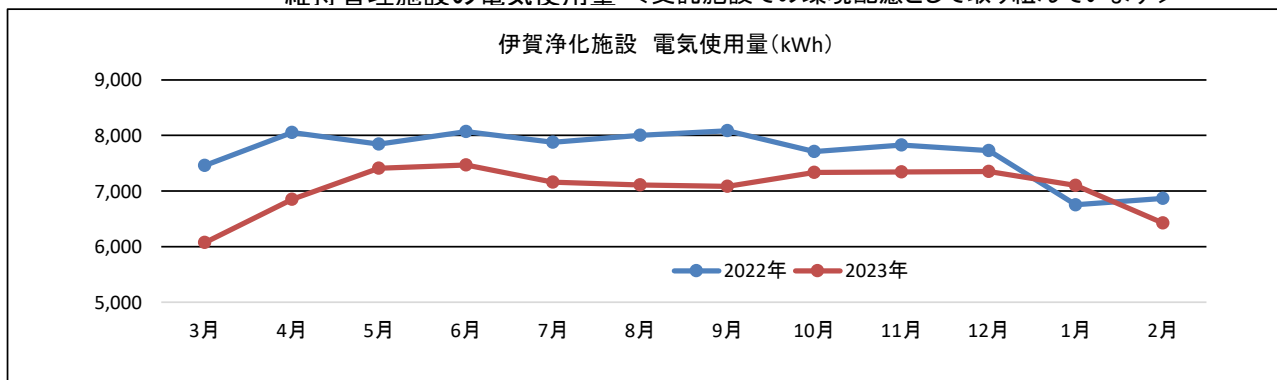


電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	×	昨年度上野東NTで実験的に設置しましたばっ気ブローのタイマーによる送気管切替に関して、夏場の気温上昇に伴う水質の悪化対策も兼ねた取り組みでした。今年度一年を通してみた結果、水質に関しても問題無く安定した運転管理ができ、追加の動力源を必要としなかったことは、増加する汚水量から見て節電効果があったとも考えています。単に電気の消費量を減らすだけではなく、効率よく機械類の負担を減らすという意味において有意義な取り組みだったと思います。これらを検証してさらに自社の現場で工夫出来る事や経験値を増やし、客先への営業提案につなげたいと思います。
・空調温度の適正化(冷房26℃ 暖房23℃)	○	
・サーキュレーターと加湿器をこまめに調整使用	○	
・夜間、休日はパソコン、プリンターなどの主電源を切る	○	
・窓に断熱シートを貼付け、熱のロスを防ぐ	○	
・冬季以外は給湯を停止、冬季休暇中は冷蔵庫も停止	○	

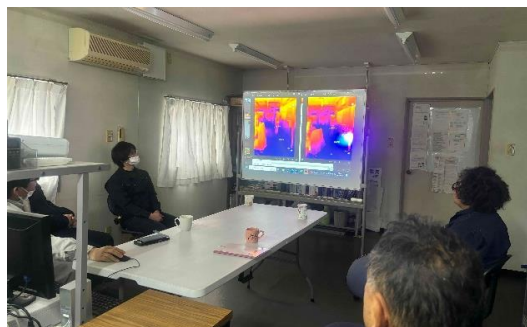


	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
2022年	19,812	19,593	21,107	19,423	20,939	20,385	20,794	19,787	19,375	19,375	19,120	16,919
2023年	18,110	19,156	19,725	18,899	19,961	19,364	19,398	19,455	19,930	19,908	21,595	19,359

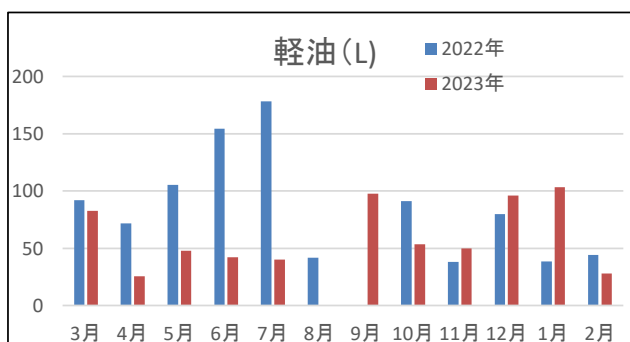
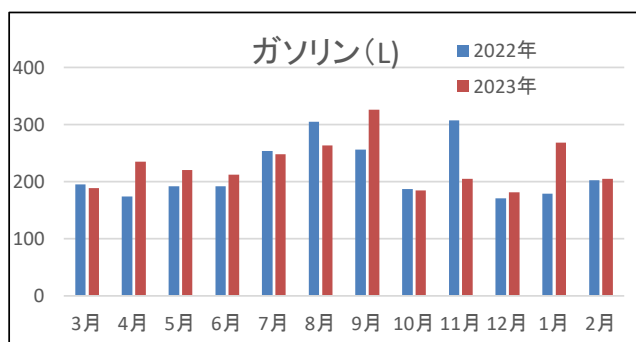
維持管理施設の電気使用量 <受託施設での環境配慮として取り組んでいます>



サーモカメラにて本社室内を測定。
効果的な空調対策を共有しました。



自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	毎回燃費消費の報告によってエコドライブとセーフティードライブを意識することが出来、全体的に前年度を上回ることが出来ました。常々運転中は運転に集中し 無駄な急加速を避け十分な車間距離をとり無駄なブレーキ操作をなくすよう伝えています。遠方に出かける際は時間帯や途中の渋滞を考慮して有料道路を使用することで安全と時間とのバランスで使用する事も積極的に薦めています。次年度も日々効率の良いルート計画や、ドライブレコーダーの成績表などを利用し自己分析を行いエコドライブに努めたいと思います。
・アイドリングストップ	○	
・効率的なルートで走行	○	



ガソリン

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
2022年	195	174	192	192	253	305	256	187	308	171	179	202
2023年	189	235	221	212	248	263	326	185	205	182	269	205

軽油

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
2022年	92	72	105	154	178	42	0	91	38	80	38	44
2023年	83	25	48	42	40	0	98	54	50	96	103	28

エコドライブとセーフティードライブを意識しています。

ドライブレコーダー通信サービス システムメール通知(急ハンドル、急ブレーキ等)の件数 2022年度→1,515件
2023年度→1,018件と減少し

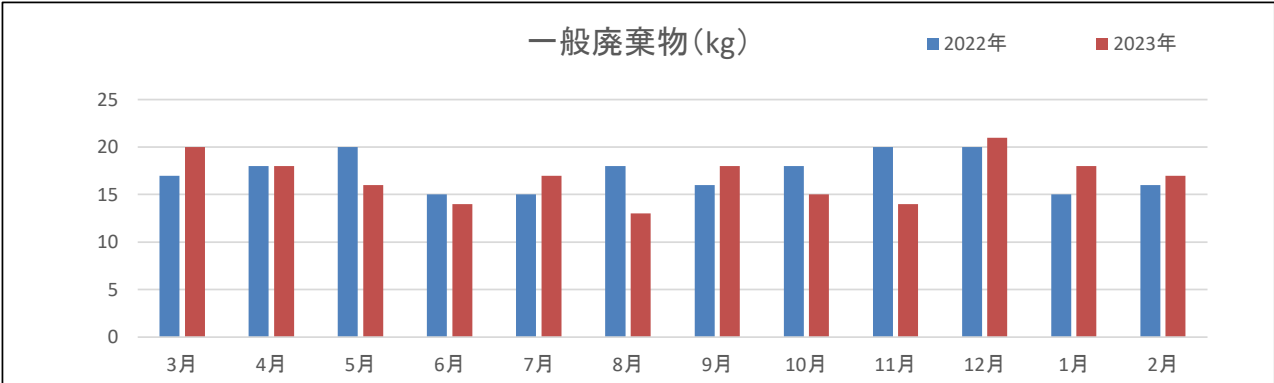


運転評価順位: 2024/02/01 ~ 2024/02/29												
ランキング	所属組織	車両	点数	移動距離	急ハンドル	急ブレーキ	急アクセル	急ブレーキ	急アクセル	急ブレーキ	急アクセル	急ブレーキ
1	株式会社 ゼンショー 工業	SCW000071 2.0P ハイゼ ック	99 点	701.4 km	9 回	1 回	8 回	16 回	12 回	35 回	16 回	0 回
2	株式会社 ゼンショー 工業	SCW000406 3.0P NVV-1 エンジン	95 点	262.4 km	27 回	1 回	8 回	18 回	1 回	2 回	8 回	0 回
3	株式会社 ゼンショー 工業	SCW000503 0.8P 730P エンジン	93 点	1670.4 km	291 回	38 回	55 回	106 回	0 回	34 回	71 回	0 回
4	株式会社 ゼンショー 工業	SCW000591 0.8P ハイゼ ック	84 点	493.9 km	94 回	36 回	51 回	4 回	0 回	1 回	3 回	1 回

点数計算方法
最高点を100とし、イベント別に以下の値を減算します。

急ハンドル	走行距離10kmあたりの回数分 × 2 点減点 最高 40点減点
急アクセル	走行距離10kmあたりの回数分 × 2 点減点 最高 20点減点
急ブレーキ	走行距離10kmあたりの回数分 × 10 点減点 最高 20点減点
急アクセル	走行距離10kmあたりの回数分 × 0 点減点 最高 0点減点
急ブレーキ	走行距離10kmあたりの回数分 × 0 点減点 最高 0点減点

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	×	廃棄物の分別意識は社内で浸透しているように思います。分別とリサイクルを意識することで廃棄物を生み出さないことに意識を向けるようにします。社内で使用した紙製品包装資材は全てリサイクル工場に持ち込みトイレットペーパー等の副産品に交換して有効活用しています。
・分別の徹底	○	
・シュレッダー廃紙のリサイクル化	○	
・DXIによる印刷物の削減	△	
・梱包材の再利用	△	



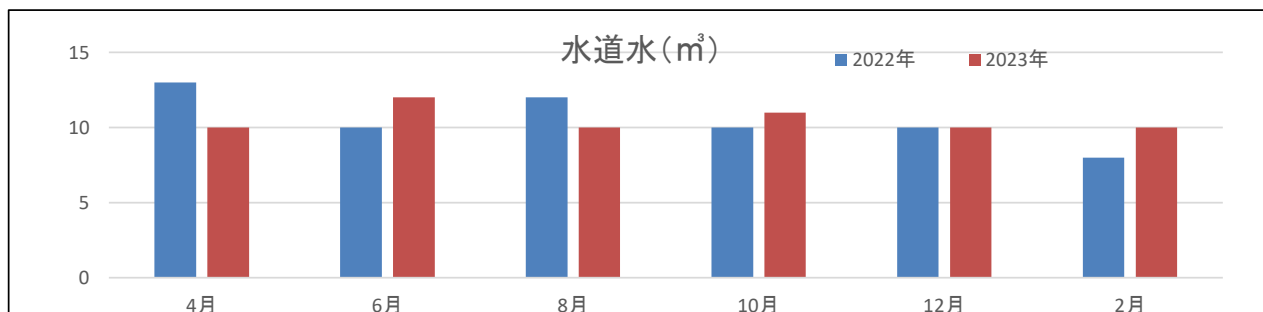
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
2022年	17	18	20	15	15	18	16	18	20	20	15	16
2023年	20	18	16	14	17	13	18	15	14	21	18	17

分別・リサイクルを徹底し、古紙は全てリサイクル業者へ持込みます



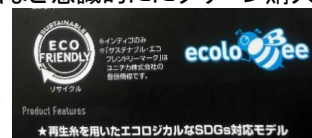
建設副産物のリサイクル推進	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
・発生抑制	○	建設現場では下請け工事が多い為産廃処理は元請けにて処分契約することが前提ですが、金属等の廃棄資源物は現場にて分別しリサイクルに回せるよう努力しています。社内在庫保管用として未使用の機械室部屋を整理し保管庫を整備した。現場で引き上げてまだ使用に耐えられる機器類は整備して仮設機器として使用できるように保管していましたが、今年度仮設ポンプ盤、仮設ポンプとして多くの現場で使用できた。一部貸出品として収益につながっているものもある。廃棄ありきではなく、リサイクルやリユースにつながる取組を今後も行います。
・分別の徹底	○	

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	×	単月では目標達成月が多かったのですが、累計で目標達成することはできませんでした。数値的には昨年とほぼ変わらずでした。昨年から大きく目標達成したことを考慮すると、今期も全社員が節水の意識をもって取り組めてくれた結果だと思います。来期は節水の工夫、雨水の利用もできるようにしたいと思います。
・処理水の有効利用	△	
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	×	
・手洗い時、洗い物において日常的に節水を励行する	○	



	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
2022年	0	13	0	10	0	12	0	10	0	10	0	8
2023年	0	10	0	12	0	10	0	11	0	10	0	10

グリーン購入の推進	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
・有害性の少ない資材の購入	○	夏の作業着を再生糸を用いたリサイクル素材のものを選択しました。今後も作業着や事務用品など意識的にグリーン購入に努めたいと思います。
・省エネ性能の高い電気製品の購入	○	
・燃費のよい自動車の採用	○	
・事務用品グリーン購入	○	



工事の効率化	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
・手順の徹底確認	○	メンバーが入れ替わったことで今後ますますコミュニケーションや作業手順の共通認識が大切になると思われます。協力業者含め事前打ち合わせ、作業手順の確認を十分行い事後の総括も充実させる必要があります。グループラインなどでそれぞれの現場の進捗や問題点をその場で写真なども使い共有し、お互いに助言や応援などコミュニケーションと情報の共有にIT情報技術を取り込んでいこうと思います。
・作業ミスの防止	○	
・顧客との連絡体制の確立	○	
・廃棄物の再資源化の推進(別項目で実施)	○	

地域や関係団体の環境活動		
なにわエコ会議 CO2削減コンペに 参加しました。	地域清掃の様子	



環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物
道路運送車両法	車両の大きさ・重量、乗車の保安基準
道路交通法	車両の大きさ・重量、通行制限
道路交通法	車両からの積載物のはみ出し、安全運転管理者等
建設リサイクル法	解体工事、建設副産物
騒音規制法	空気圧縮機、送風機
振動規制法	空気圧縮機
水質汚濁防止法	維持管理受託施設の水質基準の遵守
浄化槽法	維持管理受託浄化槽
下水道法	受託管理除害施設
消防法（危険物）	危険物の指定数量以下の保管
地域要求事項	維持管理受託施設の水質基準の遵守
顧客要求事項	工事における環境配慮

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□外部からの環境に関する苦情等

対象期間では外部からの苦情等ありませんでした。

緊急事態への対応及び試行・訓練

緊急事態の想定：	☐ 風雨対策対応	3年で一巡します	
	☐ 火災対応		
	☒ 怪我対応		
■実施日： 令和5年12月21日		■実施場所：本社	
■参加者： 松田、市川、森田、鶴永、福島、山口		■実施内容：救急箱の点検、使用期限の確認	
■評価：		手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし	
訓練・勉強会后、 救急用品として、応急手当で役に立つビニール袋、タオル、ラップ等も救急箱近くに常備する等 意見を出しました。			
■実施状況の様子 ○厚生労働省製作の 事故発生時対応マニュアルビデオにて、 自社の怪我対応手順書の確認と、 怪我の応急手当の勉強会を行いました。  ○消防署で開催された救急救命講座に参加しました。 業務中の怪我や救急時はもちろん、 日常生活の救急時に役立つ講座でしたので、 とても勉強になりました。  			

代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2024年3月15日

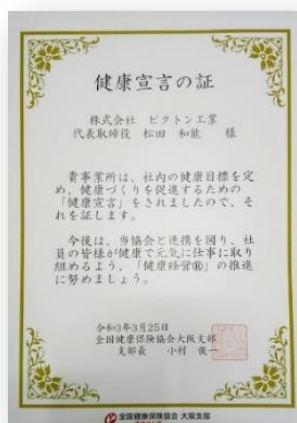
下水道接続に伴う管理現場の契約終了により、売り上げ利益ともに減少することになりました。同時に維持管理現場での電力の使用量が大幅に変わる事になりました。このことは事業規模の縮小であり直接エコ活動の推進によるものではありません。今後もそのような状況は続くと思われますが、資材高騰、人材不足などますます厳しい経営課題が予想されます。社会の様々な動きを敏感に感じながらも積極的に環境経営に取り組みながら企業としての存在価値を高めてることが、事業の規模と収益を上げられる近道だと信じ全社員と共に努力してまいります。

環境経営方針	☒ 変更なし	☐ 変更あり
環境経営目標・計画	☒ 変更なし	☐ 変更あり
実施体制	☒ 変更なし	☐ 変更あり

我社の安全衛生の取組みの紹介



2021年3月「健康宣言」
社員みんなが健康で元気に
仕事に取り組めます。



2021年11月「職場の安全衛生活動」
取引先様より日頃の労働災害防止と安全衛生活動を
評価していただきました。



これまでの環境活動の紹介

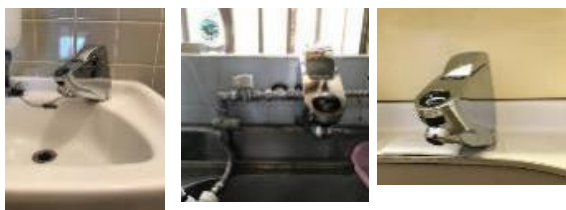
2019年10月 本社の窓を断熱施工しました



2020年1月 ガソリン車から環境負荷の低い
クリーンディーゼル車へ



2020年8月 本社の水栓を全て自動水栓にしました。



2020年12月 省エネタイプのエアコンへ。



2021年1月 車両運行管理と安全管理のため
通信型のドライブレコーダーを設置しました



2021年3月 環境活動の一環としてCO₂削減コンペに
応募しました



2021年9月 太陽光発電人感照明を設置



2022年3月 健康経営優良法人に認定



2022年9月 太陽光発電防犯カメラを設置



2023年11月 太陽光発電人感照明に変更



口編集後記

エコアクションの取り組みも5年目になりました。

日常はそれぞれの担当業務や成すべき業務があるのは当然です。そんな中でも全員で目標をたてて取り組み、目標達成も大事ですが社員全員がエコアクションの取り組みを意識し考え工夫し、全員で継続していくことにも

意味のある認証なのかも知れないと今年は感じました。

何事も継続し続けることは簡単ではないかもしれませんが、今後も一人一人が環境経営の一員としての意識を持ち続け、取り組んでいきたいきたいと思います。